

## 第28回微生物シンポジウム

微生物学講座 河村 好章

日本薬学会生物系薬学部会主催「第28回微生物シンポジウム」は、愛知学院大学薬学部（楠元キャンパス）にて開催させていただきました。愛知学院大学薬学部微生物学講座の河村 好章 教授が世話人を勤め、森田 雄二 准教授、富田 純子 講師が事務局を務めました。



お陰様で2題の特別講演、5題のシンポジウムに加え、20題の一般演題が集まり、52名（愛知学院大学薬学部微生物学講座メンバーを除く）と多くの参加者を得ることができました。

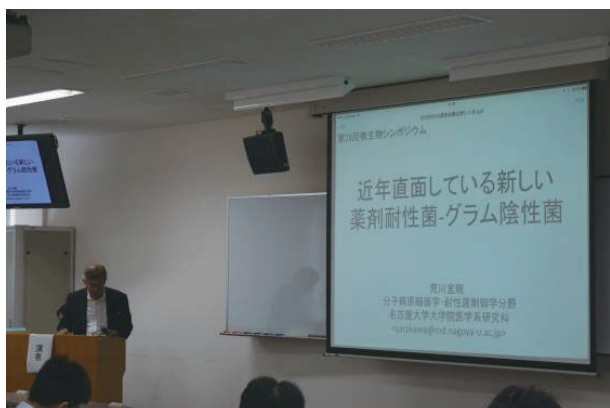


本会のテーマは「感染制御—叡智を集約した新たな展開」としました。「感染制御」という用語を使っておりますが、これは決して臨床における感染制御に特化したものではありません。新たな抗菌薬の開発が頭打ちとなった現状を踏まえて、感染制御に繋がる基礎研究・シーズ探索研究はもとより、感染制御・感染防御論の新たな展開、そして、薬剤耐性の現状を俯瞰することにより、これまでに無い新たな感染制御への展開の一助となれば、と考えて設定しました。

このテーマに沿って初日は、東北大学大・赤池 孝章 教授に「細菌感染におけるレドックスシグナル制御機構」、広島大学・青井 謙輝 テニュアトラック講師に「分離培養手法の革新—難培養性微生物の正体と可能性—」について特別講演をして頂きました。



また2日目は、「薬剤耐性の現状と薬剤師の係わり」と題し、新たな抗菌物質の探索から今日の医療現場における問題点までを医師・薬剤師の立場から話題を提供して頂きました。演者は、広島大学・黒田 照夫 教授、愛知医科大学・三嶋 廣繁 教授、名古屋大学・荒川 宜親 教授、東京女子医科大学・菊池 賢 教授、岐阜大学医学部附属病院・丹羽 隆 薬剤部主任と何れも、その分野の第一人者の先生方にご講演頂く事が出来ました。



本会において、発表演者が薬学会の会員である15演題の抄録を対象に、「文章の巧拙」、「データの量と質」、「研究の重要性及び発展性」の観点から、5名の査読者による採点を行い、3演題に対して「ベストアブストラクト賞」の表彰を行いました。受賞演題の1つが愛知学院大学大学院薬学研究科微生物研究室・久網 僚 大学院生の「*Clostridium* sp. ID4のDSS誘発性大腸炎モデルマウス病態への関与」でした。



最後になりましたが、2日間に渡り、活発な意見交換ができ、盛会のうちに終了することができましたのは、ひとえに愛知学院大学薬学会のご支援とご協力のおかげと感謝申し上げます。



(文責・森田 雄二)